

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ…



2021年

4月10日

第114号

ゲッケイジュ（クスノキ科）

園内奥の資材庫前、ひょうたん池フェンス沿いに、淡黄色の花がたわわに付いているのが見られます。地中海沿岸地方原産の雌雄異株の常緑樹です。古代ギリシャでは競技の優勝者の栄光のシンボルとして、葉と小枝を丸く編んだ月桂冠が授けられました。今年の東京2020オリンピックはいろいろと物議が出ていますが、マラソン優勝者の冠をつけた姿は楽しみです！

葉は精油成分を多く含み、乾燥させてローリエと呼ばれる香辛料として利用されたり、お米を保存する時の防虫目的で添えられます。葉は月桂葉（ゲッケイヨウ）と呼ばれる生薬となり、芳香性健胃薬として利用したり、浴用料として、肩こりや神経痛、リウマチの緩和に用いられます。また、果実のエキスが発毛、育毛剤として利用されます。

セイヨウリンゴ（バラ科）

資材倉庫の横、山崎川沿いに設置された果樹園で、桜に似た薄いピンクを帯びた花が楽しめます。植物としての標準和名がセイヨウリンゴ、この樹から採れる果物は私達にとっては身近なので、説明は省きます。

ところで、私達は、この木のどの部位を食べているのでしょうか？果物として目にするのは、花托が肥大した偽果で、真の果実は種子の周りの芯と呼ばれる部分、果皮はその種子の周りにある薄皮部分となります。従って、可食部分は果実ではなく、花托が成長した部分です。

さて、この木の樹皮から発見されたフロリジンをシーズとして、ナトリウム依存性グルコース輸送体（SGLT）阻害薬が開発され、糖尿病治療薬として利用されていることは、薬学生として知っておきましょう。

園内の花たち見頃ですよ！！